



令和5年5月12日

各位

会社名 大黒屋ホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 小川 浩平
 (コード番号:6993 東証スタンダード市場)
 問合せ先 財務経理部長 堀内 治芳
 (TEL 03-6451-4300)

令和5年3月期通期連結業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

令和5年2月10日に公表しました令和5年3月期(令和4年4月1日～令和5年3月31日)の通期連結予想値と本日公表の実績値とにおいて差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 令和5年3月期通期連結業績予想数値と実績値との差異について

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益	包括利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭	百万円
前回発表予想 (A)	12,647	193	23	△241	△2.06	△197
今回実績値 (B)	12,452	129	△31	△275	△2.35	△250
増減額 (B-A)	△195	△64	△54	△34	-	△53
増減率 (%)	△1.5%	△33.2%	-	-	-	-
(ご参考) 前期実績 (令和4年3月期)	17,381	63	△98	△292	△2.50	△294

2. 差異の理由

令和5年3月期の通期連結業績につきましては、当社根幹会社である株式会社大黒屋(以下「大黒屋」という。)において昨年10月の渡航制限撤廃に伴うインバウンド復活により、国内で利幅の取れる各店舗での国外個人顧客による売上は増加した半面国内個人顧客の売上が想定を下回ったことから予想値を下回る結果となりました。

営業利益及び経常利益の各収益指標におきましても、売上高の業績が予想値に対して下振れした事で夫々業績予想値を下回る数値となりました。

一方、インバウンドで取り残されていましたが中国においては現況下、個人渡航者の制限は撤廃されており、更に今後ツアー渡航者の制限緩和によるインバウンド再来が予想され、来期大黒屋においては大幅な売上の伸びが期待されます。

なお、上記の通り前期実績対比では、売上高を除く営業利益は増収増益となり経常利益他各収益指標は大幅な改善となりました。

以上